

7 14 7 14 7 14 7 14 7

15 30 15 30



戦争が 起きたら

SPF スウェーデン
心理防衛委員会

我々は平和を希求している

我々はスウェーデンが自由で独立して平和であることを求めている。したがって、我々は平時に他国と軍事同盟を結ばない。戦時においては、我々は中立を維持し、どちら側にも付かない。

我々が中立であろうとし、我々には中立たりえる力があることを、他国が信じるのが重要である。したがって、我々は良き防衛、すなわち、軍事防衛と民間防衛から構成されるトータルディフェンスを持っている。そのような防衛は、他国がスウェーデンを攻撃することが見合わないものにするに十分な強さと効率を備えていなければならない。このようにして、我々は戦争から自身を防護する。

スウェーデンは平和のために働いている。我々はそれをよい方法で、たとえば国連で行える。我々は東西両陣営と軍事同盟を結んでいないからだ。スウェーデンが貧しい国々を支援することで、世界をより安全にできる。

何者かがスウェーデンを攻撃したら、我々はあらゆる手段で自衛する。スウェーデンに住む者すべてが参加しなければならない。スウェーデン人も外国人もともに。兵士として軍事防衛に、あるいは民間防衛に参加。あるいは、それが最善なら仕事を続けることが最も容易だ。

要保存

このブックレットはスウェーデン心理防衛委員会制作である。あなたと家族が戦争が起きたときに為すべきことが書かれている。

重要メッセージ

7 14 7 14 7 14 7 14 7 14

警報音7秒 休止14秒 警報は2分後に終了する。

- 家に入る
- ラジオを聴く
- 扉と窓と換気口を閉じる

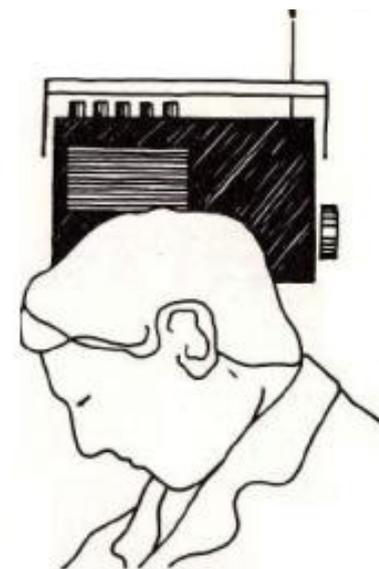
警報は平時にも、有毒ガス発生等の事故でも使用される。

すべての扉と窓と換気口と換気扇を閉じて、ガスが屋内に入らないようにする。ラジオを聴く。何が起きたか、何をすべきかをラジオで広報される。情報はテレビや文字放送でも広報される。

警報は、平時には年間4回テストされる。



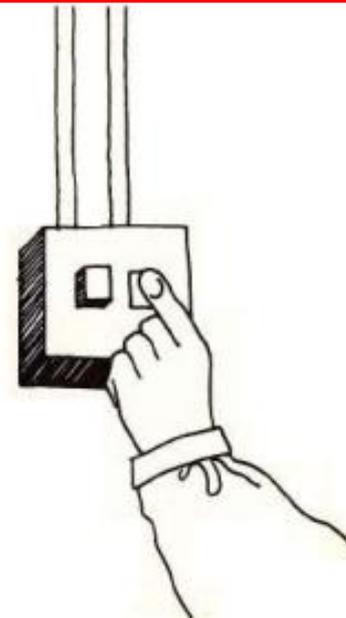
家に入る



ラジオを聴く



窓を閉める



換気扇を止める

緊急警報

緊急警報発令時には:

30 15 30 15 30

警報音30秒、15秒休止
警報は5分後に終了する。

緊急警報＝戦争の可能性あり。全トータルでフェンスは戦争に備えるとき。

緊急警報＝総動員。軍事防衛あるいは民間防衛の戦時動員命令を受けた場合は、ただちに任地に行く。これは戦時動員命令である。

ラジオやテレビや新聞は、この警報について情報を広報する。



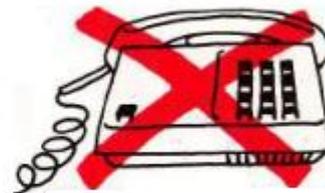
ラジオを聞いて、
重要情報を得る。



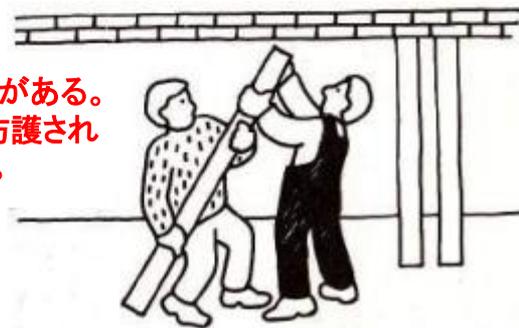
危険になったら、いつでも
家から避難できるように
準備する。



動員命令を受けていたら、
任地に向かう。



警報発令後は電話を使わ
ない。当局が使うための
回線を空けておく。



空襲の可能性がある。
シェルターや防護され
た場所を探す。

シェルターの修理を手伝う。

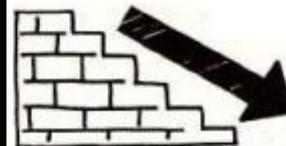
空襲警報

空襲警報発令時には:

シェルターに急ぐ



あるいは地下室のような
防護された場所に行く。他
に場所がないなら、1階に



短い警報音が一分間。

航空機や無人機による攻撃の可能性がある。シェルターや防護された場所に急ぐ。

空襲警報は、放射性降下物や、毒ガスや細菌兵器による攻撃も意味する。その場合も、シェルターに急ぐこと。

数時間から数日という長時間にわたって、シェルターに留まれる準備をする。

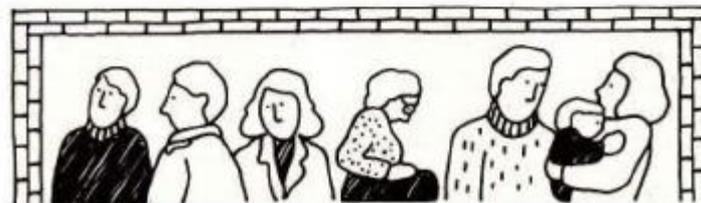
空襲警報の情報はラジオでも広報される。



電池ラジオや必要なもの
を持って行く(予め荷造り
しておく)



防護された場所に行けな
い人の手助けをする



警報解除を聞くまで、あるいはシェルターを出てもよい
と知られるまで、シェルターに留まる

警報解除

長い警報音。30～40秒で終わる。

この警報音は危険が去ったことを意味する。

シェルターを出て、レスキューを手伝う。その後は、通常の仕事に復帰する。



負傷者や動けない人を助ける

消火活動を行う

レスキュー隊員の指示に従う

警報解除後も電話を使わない

シェルターに到達できない場合には、以下をすること:

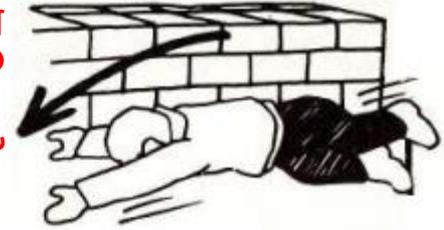
警報システムがない場合

多くの場所では警報システムがない。そこでは、スピーカー搭載車や教会の鐘などの手段で警報を伝える。ラジオにノイズが入るかもしれない。

警報のない攻撃

警報が出ていなくても攻撃を受けることがある。攻撃が迅速すぎて探知できないかもしれない。警報システムが壊れているかもしれない。

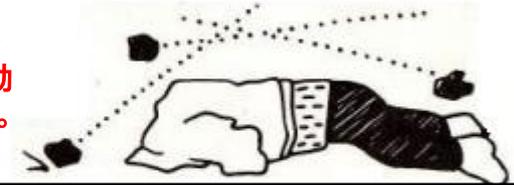
ただちに伏せる。たとえば、門や、穴の中や、壁など何らかの防護手段となるもの側など。屋内にいるなら、何らかの防護手段となるものの背後で伏せる。



頭と腕と露出した肌を防護する。



伏せたまま、周囲を飛散する石などが動かなくなるまで待つ。



服に火がついていたら、火が消えるまで、地面を転がる。



毒ガスの危険がある場合は、ガスマスクをつける。



より適切な防護場所に移動する。



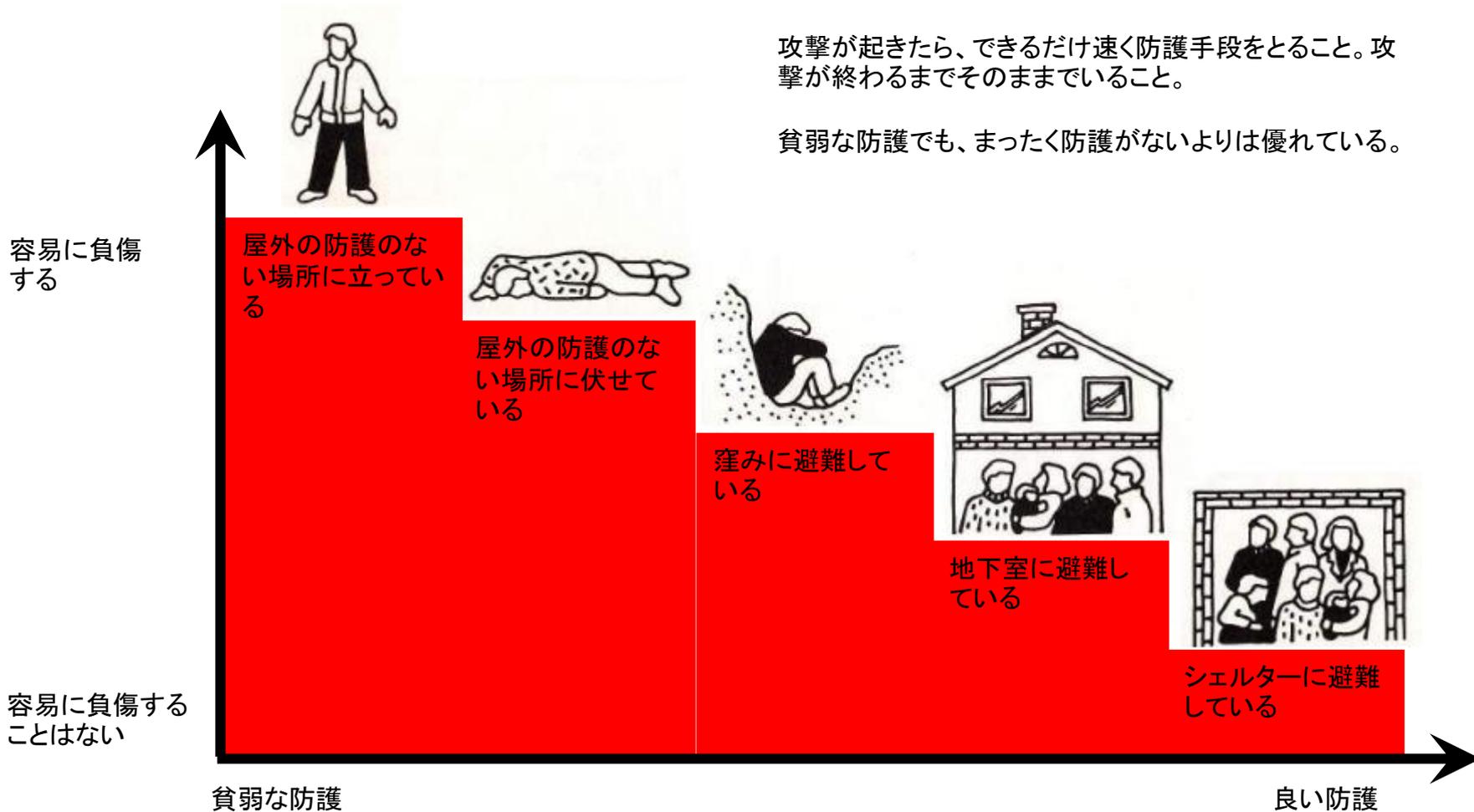
シェルター

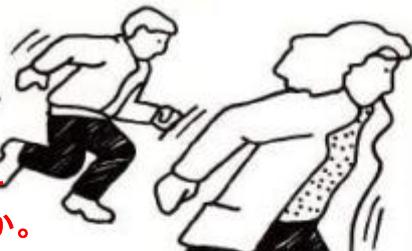
ひとつの防護室で、さまざまな種類の武器に対して最善の防護手段となる。それは、火災や崩壊や圧力や破片や爆発から防護する。

シェルターが遠い場合は、地下室や、防護となる場所に急ぐ。壁や窪みでも防護手段となる。

攻撃が起きたら、できるだけ速く防護手段をとること。攻撃が終わるまでそのままのこと。

貧弱な防護でも、まったく防護がないよりは優れている。





最も近いシェルターの場所を知っておく。どう行けば、最も早く到達できるか。

家の中のシェルター整備を手伝う。世帯主は48時間以内にシェルターを整備する。レスキュー隊と家庭防護協会が方法を教えてくれる。



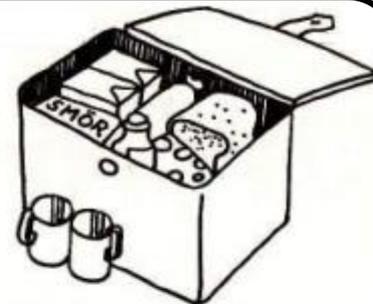
火災の延焼リスクを削減する。家の周りにある、簡単に火が付くものを片付ける。ブラインドを閉める。窓に飾ってあるものを片付ける。バスタブに水を溜める。



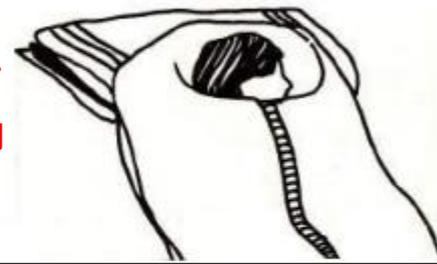
家にシェルターがない場合は、次のようにする。地下室の屋根を強化する。地下室の窓の前に土を積み上げる。窓の内側に(木製やメゾナイト)板を打ち付ける。



シェルターに持ち込むために、食料と飲み物をパックする。数日間、シェルターに留まる必要があるかもしれないことを銘記しておこう。持っているなら、防護マスクも持って行く。



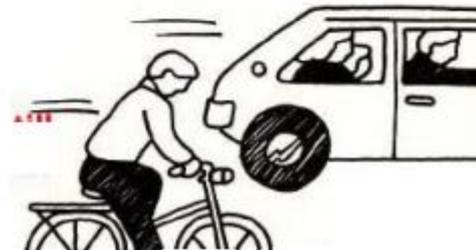
毛布や寝袋や電池ラジオを持って行く。しかし、シェルター内は混雑しているかもしれない。持ち物を用もなく引きずらないこと。



犬や猫やその他の動物をシェルターに連れて行かない。多くの人々が動物にうんざりする。



シェルターが遠い場合は、シェルターを持っている友人のところへいく。あるいは、それほど危険ではない場所へ移動する。



疎開

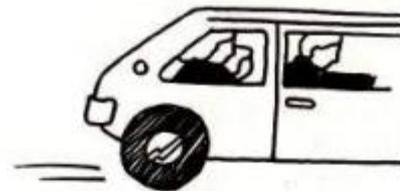
ある地域で戦闘が起きたら、そこに住む住民は、そこから避難しなければならない(疎開)。

多くの地域では、そこに住む住民を収容するのに、シェルターは不足している。そのような地域が爆撃を受けると思われる場合、シェルターに入れない住民は疎開しなければならない。よりよい防護のある場所か、占領リスクの小さいところへ移動する。

疎開についての情報はラジオやテレビで、日々そして随時に、広報される。家庭防護協会とレスキュー隊が行先を通知する。

疎開したい場合は、家庭防護協会あるいは地方自治体のレスキュー隊に連絡する。

自動車を持っていて、他に生活する場所の準備ができるか？それなら、他の情報がない限り、そこへ行く。



自動車を持っていて、他に生活する場所がないなら、当局の指示する場所に行く。



自分で疎開できない場合は、近くの疎開拠点に行く。そこで、他の場所への移動支援を受けられる。



自分で疎開拠点に行けない場合は、地方自治体の疎開本部や家庭防護協会に連絡する。



持って行くもの

疎開するとき、これらを持って行く:

- 数日分の食料と飲み物
- ナイフ・フォーク・スプーン・カップ・皿・魔法瓶
- 懐中電灯・ろうそく・マッチ
- 電池ラジオ(新しい電池か確認する)
- 暖かい衣服
- レインコート・長靴
- 寝袋か毛布
- 石鹸・歯ブラシ・タオル・トイレトペーパー・消毒液・ビニール袋
- 防護マスク(ガスマスク)
- 現金・IDカード・パスポート・バウチャー・保険証・配給カード



これらのものを事前に準備するとよい。運べるものを持って行く。バックパックに入れておく。家族はいっしょに行動し、別のグループに入らない。

家を離れるときは:

- カーテンを外し、ブラインドを降ろす
- バスタブに水を溜める

宿泊

新しい場所に到着したら、他の人とともに宿泊場所（住居）を提供される。さらに支援が必要な場合は、宿泊施設に留まる。到着した場所の地方自治体が、食料や衣料を支援する。必要なら現金（戦争補助金）も支給される。

- 新しい住所を親戚に知らせる

呼吸

戦争が起きたら、呼吸保護器が最も必要となる場所で、それらが配布される。呼吸保護器は空気中の有害物質を吸い込むのを防ぐ。呼吸保護器は有害物質の飛散からの防護もできる。

成人及び青年には防護マスク（ガスマスク）が配布される。小さな子供たちには防護ジャケットが配布される。乳児に対しては、ベビーカーに着用または装着できるフィルタ付きの保護袋が用意される。



防護マスク（成人及び青年用）



防護ジャケット（子供用）



乳児防護袋（乳児用）

核兵器・生物化学兵器

核兵器及び生物化学兵器は恐ろしい。核兵器(原爆)は、かつて戦争で(日本の2つの都市に対して)使用された。生物化学兵器(感染性及び有毒物質)は禁じられている。誰かが、例えば毒ガスを使えば、強い抗議を受ける。スウェーデンはそのような兵器を保有していない。したがって、誰かが我々に対して、そのような兵器を使うとは考えていない。しかし、もし使われた場合のため、我々は防護方法を知っておく必要がある。

核兵器

核兵器はほかの兵器よりも、はるかい大きな被害を与える。被害の大きさは爆弾の規模と爆発する場所に依存する。影響が数百メートルの範囲内におさまる小規模核兵器もある。大型核兵器(水爆)は都市部全体を破壊できる。

核兵器が爆発すると、非常に強い閃光が生じ、しばらくの間は眼が見なくなる。同時に強力な熱が発生し、住宅などに火をつける。人間も燃える。数秒後に圧力波が到達し、家を破壊する。あらゆるものはバラバラに飛び散る。

核爆発では、放射性物質が形成される。砂や土が雲のように巻き上げられ、大きなスポンジのように見える。放射性物質は砂や土に付着する。一部はすぐに爆発した場所に落ちてくる。それ以外は風に流され、10～15分後に降ってくる。一部は数時間後に降ってくる。放射性降下物は爆発地点から数キロメートル彼方にも降ってくる。

有害な放射線

爆発からの直接の放射線でも、放射性降下物からの放射線でも病気になりうる。放射線は衣服や薄い壁を通り抜ける。厚い壁が最善の防護である。

放射性降下物からの放射線は、爆発の直後が最も強い。そして、最も被害を与える。最初の数日で、急速に減衰する。

多量の放射線に被曝すると、放射線障害になり、数週間以内に死ぬこともある。数年後に癌になることもある。

シェルターが最善

爆発に近すぎなければ、対処可能である。防護室で最良の防護を得られる。地下室もよい防護手段となる。普通の家では家の中央部が最も良い防護場所となる。壁を厚くすれば、その分だけ、よい防護を得られる。

シェルターは幾つかの異なる防護を可能とする。閃光や熱線や圧力波から防護できる。爆発からの直接の放射線から防護できる。その後の放射性降下物から防護できる。シェルター内の空気は、放射性の塵を除去するフィルターを経由して入ってくる。

しかし、放射性降下物からの放射線が十分に減衰するまでは、シェルター内に留まらなければならない。ラジオを聞くこと。

防護室を出る場合は、防護マスク(ガスマスク)を着けて、放射性の塵を吸い込まないようにする。



警報音で核兵器及び放射性降下物の警報を知らせる。ラジオやテレビを聞くこと。



屋内でも、ガラスの欠片など破片で負傷することがある。



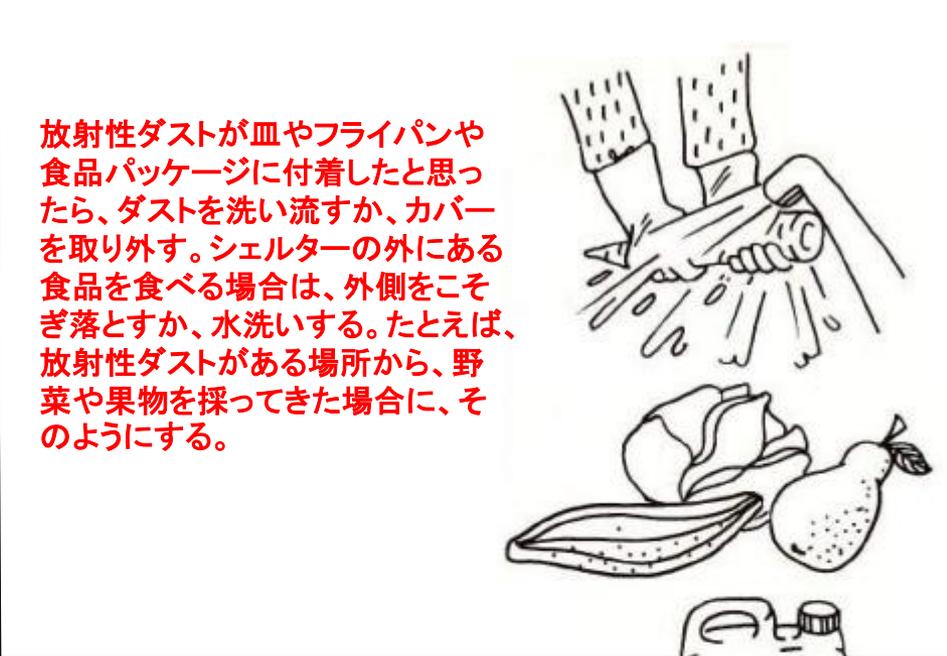
爆発から遠く離れていても、放射性降下物からの防護手段を探す必要がある。5分以内に到達できるなら、シェルターに急ぐ。いかなる場合も、建物内への避難を試みる。



放射性降下物が降っている場所を移動しなければならないときは、屋外にいる時間を最小限にする。衣服では放射線から防護できない。ダスト(塵・放射性降下物)が直接に肌に付着しないように注意する。防護マスクを着ける。



放射性ダストが付着したと思ったら、シェルターなどの部屋に入る前に、建物の中で、衣服と靴を脱ぐ。顔などダストが付着した部分を洗う。洗った後の水は捨てる。



放射性ダストが皿やフライパンや食品パッケージに付着したと思ったら、ダストを洗い流すか、カバーを取り外す。シェルターの外にある食品を食べる場合は、外側をこそぎ落とすか、水洗いする。たとえば、放射性ダストがある場所から、野菜や果物を採ってきた場合に、そのようにする。



密封されたパッケージや缶に入った食品や飲料や、閉じた食器棚に入れた食品や飲料は、食べたり飲んだりしてよい。水道水か、密封されたボトルに入った水か、蓋をした井戸の水を使うこと。

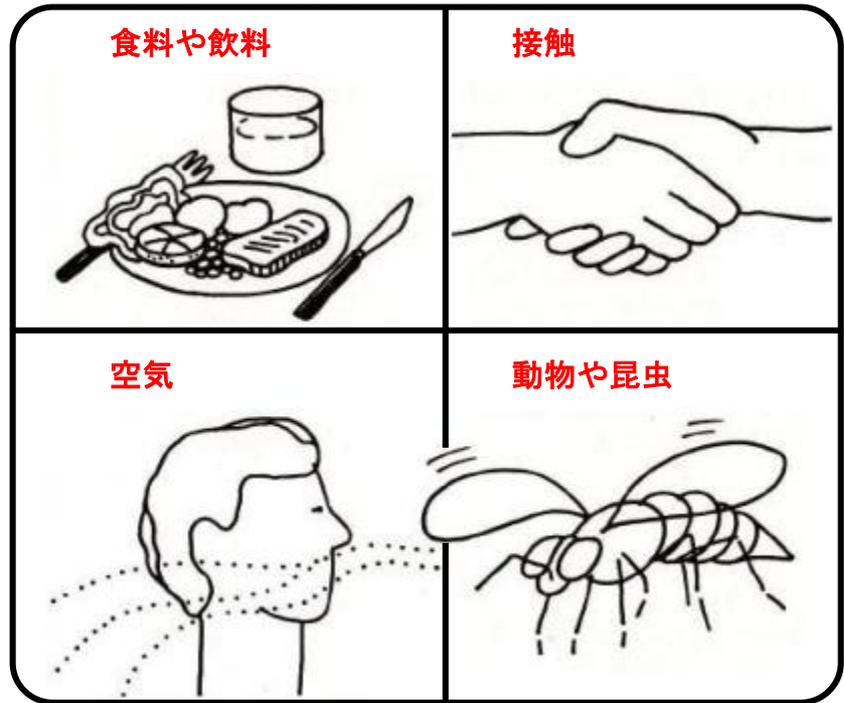


ラジオを聴く。何をすべきか、いつまでそこにいればいいか、広報される。

以下のような方法で感染するかもしれない:

生物兵器(感染)

細菌やウィルス(感染性因子)は、人々を病気にする生物兵器として使える。国際法のもとでは、汚染物質を兵器として使うことを禁じられている。しかし、戦争を始めた者は、国際法を気にしないかもしれない。戦争が始まる前に、彼は感染因子を空気中や、水や食料にばら撒いて、人々や動物や植物に害をなせる。



それでも防護できる

注意深く、特に両手を洗う。特に調理の時は重要である。

シェルター内にいれば、空気中の感染因子から防護される。シェルターは有害物質を除去するエアフィルターが付いている。屋外では、防護マスク(ガスマスク)を着けることで、安全に防護される。

防護方法:

石鹼と水で手をよく洗う。
特に食事の前とトイレの後。



感染症に罹っている家族
がいる場合は、手を消毒剤
で洗う。



調理の前には必ず手を
洗う。



食料が汚染されていると思う
なら、煮ること。ローストしたり、
揚げたりしても、感染性
因子を殺せないことがある。



食べ物、皿、すすぎのため
に必要な水を煮沸する。



飼っている動物の飲み
水は汚染されていないもの
に限る。



警報音は生物兵器警報にも使われる。詳細はラジオやテレビや掲示物で広報される。

化学兵器(毒ガス)

毒ガスやその他の化学物質は、人々や動物や植物を病気にする兵器として使える。それらは空気や水の中を拡散する。

そのような有毒物は通常は、放出された地点から数キロメートルの範囲が最も危険である。しかし、毒ガスはそこから100キロメートル、風に流されることもある。

神経ガスは最も危険である。それらは無臭である。冒されても気が付けない。

その他のガスは、臭いがあるか、水や地面の上で油滴のように見えるので、気が付ける。

神経ガスによる麻痺は直後あるいは数分後に起きる。すぐに気分が悪くなり、呼吸が苦しくなり、胸が圧迫されたように感じる。

その他の化学物質は5～10時間後にダメージを与える。皮膚に水膨れができたり、眼や肺にダメージを受ける。

それでも防護できる

空気を浄化できるエアフィルターを装備した防護室にいるのが最善の防護となる。

防護マスク(ガスマスク)で顔と肺を防護できる。衣服で皮膚を防護できるが、それは短時間だけである。レインコートと手袋は、他の衣服よりは少し防護力が高い。

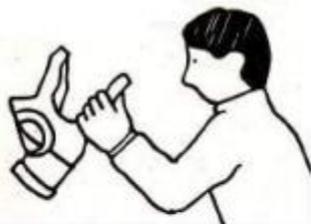
シェルターや防護マスクや呼吸装置がない場合、屋内に入り、窓や扉や換気口を閉じて、部屋を目張りする。地下室は他の部屋よりは防護に使える。

警報音は化学兵器警報にも使われる。詳細はラジオやテレビで広報される。

空気中に毒ガスがあると思ったら、すること:

有毒物質が付着したら、必ずやること:

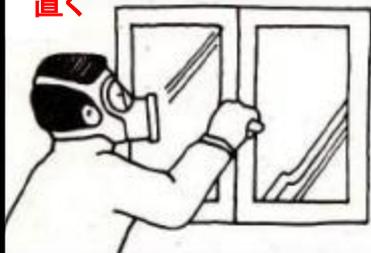
ただちに防護マスクを着ける



屋外にいたら、喉と頭を何かで覆い、手袋をするか、手をポケットに入れる



急いでシェルターに入るのが最善である。扉と窓と換気口を閉じる。上着と靴を脱いで、シェルターの外に置く



警報解除

危険がなくなるとわかるまで、防護マスクを着けたままにする。気密シェルターに入ったら、防護マスクをはずしてよい。ラジオを聴くこと



急いで、防護マスクを着ける。皮膚に付着した有毒物を拭き取る。有毒物を拭き取った布を投げ捨てる。行ける場所に急ぐ。防護マスクを着けたままにする。



シェルターに入る前に、有毒物質の付着した衣服を脱ぐ



皮膚を拭いて、その布を捨てるか処分する。石鹸と水で洗う。洗った水は捨てる。



有毒物質の付着したものは触れない。

危険

防護マスクを着けたままにする。危険が去ったと広報されたら、はずしてよい。ラジオを聴くこと。



全員の義務

スウェーデンに居住する者は誰もが、トータルディフェンスの一部を担う。

18～47歳の男性は兵役につく。兵士として立たなければならない。16～65歳の男女は民間防衛の義務がある。招集がかかれば、レスキュー隊に応召しなければならない。

必要に応じて、政府は義務年齢を16～70歳に拡大する決定を行う。

スウェーデン国民ではない外国人は、兵役及び民間防衛の義務を負わない。しかし、全員参加労働の義務は、外国人にも適用される。もし望むなら、職場防衛や家庭防護協会の代表者になれる(24ページ参照)。

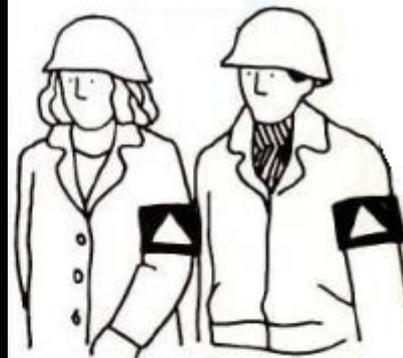
兵役につかない男性は、代わりに武器を使わない、義務を与えられる。彼らは民間防衛として、戦争に参加する。

兵役 18～47歳



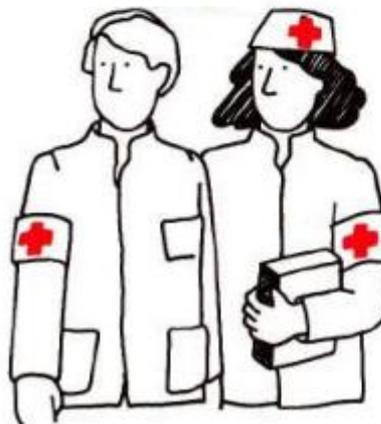
スウェーデン国民

民間防衛 16～65歳



スウェーデン国民

医療関係者の義務 16～70歳



外国人を含む

一般労働の義務 16～70歳



外国人を含む

動員

戦争の危険性があるとき、兵役の招集(動員)をかける。レスキュー隊の招集も行われる。これらはラジオやテレビ、職場、郵送や緊急警報などにより通知される。

招集

軍やレスキュー隊に所属していて、招集がかかったら、できる限り速やかに指示された場所に行く。命令書は交通機関のチケットとして使える。

戦地郵便番号をもらったら、家族に知らせる。それが招集中の郵便物の宛先となる。

命令された場所に到達できない場合、もっとも近い軍駐屯地や、家庭防護協会長やレスキュー隊長のところや、警察に行く。

軍の招集やその他の招集がかかっていない場合は、通常の仕事続ける。当局に指示に従う。

公的義務

戦時には、政府は国のために働く義務を課すことができる。その場合、国民は政府から指示された仕事をしなければならない。労働時間が延長される場合がある。許可なく、仕事につかなかったり、仕事を変えたりできなくなる。

戦時にはスウェーデンの居住者全員が義務を負う。これはスウェーデン国民と外国人の両方に適用される。

医療関係者は全員が義務を負う。これは平時に既に訓練を受けていることによる。公務員や民間人と同様に戦時動員される。大半の医療関係者は職場で戦時動員される。

自分の仕事を続ける場合は、政府及び雇用主の指示に従って働くこと。

すべての人へ:

戦時には通常以上に助け合う必要がある。他に情報がないときは、自分の仕事を続けること。

医療

医師や看護師が必要な場合、医療施設や医療センターや地区看護師・助産師レセプションに行く。小さな負傷や病気で、病院の救急治療施設に行ってはならない。

戦時では、病院は手術や看護のために、より多くの病室を必要とする、学校や衛生センターや、その他条件に合った建物を使うことがある。

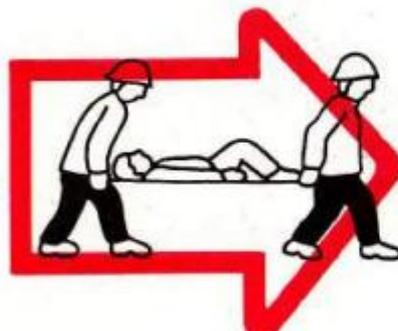
医療産業には必要となる医薬品やその他の物資が備蓄されている。それらは戦時や、国外からの調達に困難なときに使用される。

軍とレスキュー隊は共同拠点を設ける。そこで、負傷者は応急措置を受けられる。

戦争では多くの人々が負傷する。多くの人々に輸血が必要となる。献血すること。



被害地域



集結地点



医療機関

- 病院
- 入院のための別施設 (入院別棟)
- 手術のための別施設 (手術別棟)

電話で救急車を呼ぶ。電話番号は:
あるいは誰かに搬送を依頼する。

90000

自己防衛

戦時に自分や誰かが負傷した場合、自分で助けなければならない。

今から自己防衛講座を受講できる。赤十字やスウェーデン民間防衛協会が自己防衛講座を開設している。

交通事故が起きたときにも自己防衛できると役立つ。

保険証書

戦争が起きたら、年金や児童手当やその他の定期的な給付を受給している人々すべてに、保険基金は保険証書を送付する。これは給与未払いで失業給付を受けている者にも適用される。保険証書はどの給付を受ける資格があるかを証明する書類である。

郵便局や銀行でお金を受け取る時に、保険証書を持って行く。

配給

スウェーデンの農業は全国民に食料を供給できる。しかし、危機の時は、現時点の量及び種類の食料を確保できるとは限らない。他国から商品を調達するのが困難になるかもしれない。

国外から原油を購入できなくなると、自家用車にガソリンを供給するのは困難になる。準備時及び戦時備蓄があるが、これらはトータルディフェンス及び絶対必要な交通機関に使われる。

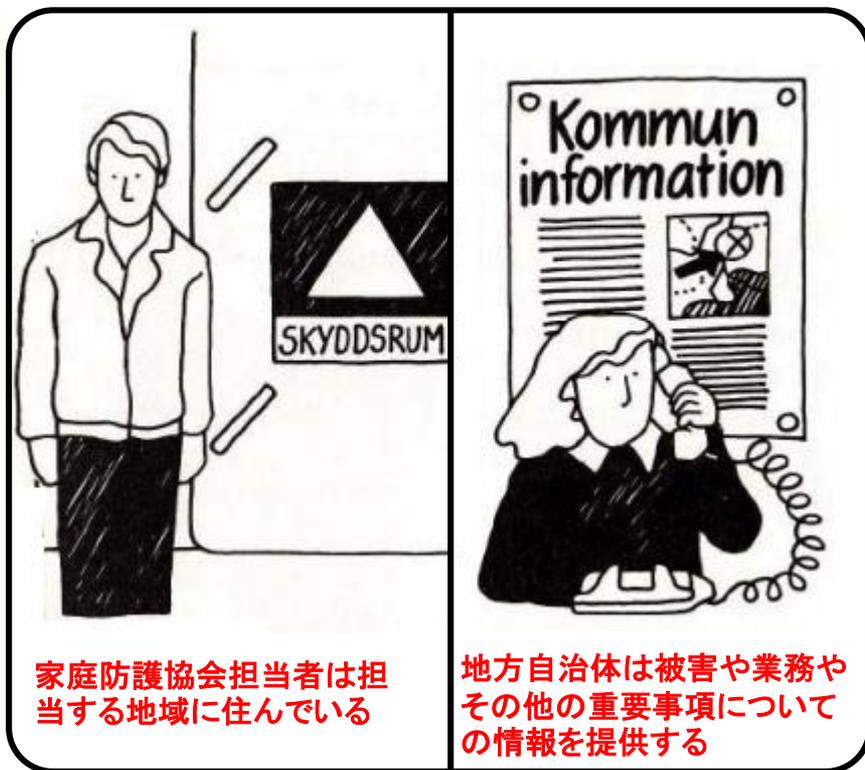
室内の温度を高くしない。したがって、室内でも暖かい服を着る。電力は割当になる可能性がある。停電が起きるかもしれない。現在、電力を使っていることのすべてに、電力を使えるわけではなくなる。

商品の配給制度が準備される。全住民に個人カードと配給バウチャーのついた配給カードが郵送される。



情報

各地方自治体は、準備時及び戦時に特別情報センターを設置する。センターでは、育児や老人介護や配給や食料や水や学校などについての問い合わせの答えが得られる。



家庭防護

全国で、家庭防護のための組織が設立される。都市部では、家庭防護担当者が街区ごとに配置される。彼らは、防護や疎開(10ページ)や食料や住居や社会サービスや環境と健康保護や学校などについて助言と情報を提供する。地域で必要なことについての担当部署についても、教えてくれる。

家庭防護担当者は、彼らが居住する地域の解説者である。彼らはボランティアである。家庭防護主任は民間防衛義務者であり、平時に訓練を受けている。

人々との関係を簡単に築けて、トータルディフェンスにおける任務がない場合、家庭防護担当者として登録できる。家庭防護担当者向けの講座がある。家庭防護担当者はスウェーデン民間防衛協会によって組織される。

子供

地方自治体は平時には、昼間保育やその他の保育を用意している。地方自治体は戦時にも、それらを行う。

多くの親たちはトータルディフェンスに参加し、戦時には子供の面倒を見られなくなる。それらの子供たちは親戚や友人と暮らすことになる。それができない場合は、地方自治体が支援する。



トータルディフェンスは皆さんの自家用車など私有物を徴発することがある

準備時及び戦時には、トータルディフェンスは、必要に応じて、皆さんの私有物を徴発する可能性がある。皆さんは、家から疎開した人々を、自宅に受け入れる必要があるかもしれない。トータルディフェンスが皆さんの自家用車やボートや使役犬や食料などを徴発する可能性がある。

当局がそれらを行うための特別法制が定められている。皆さんは、補償給付と引き換えに、スウェーデンを助けることになる。



戦時補償

皆さんは戦時に負傷する可能性が大いにある。政府は補償するが、すべて補償できるわけではない。貴重品リストを作成することが重要である。保険証券や有価証券を安全な場所に置くこと。そうすることで、戦後に権利を容易に得られる。

貴重な物の移動

戦時には、当局は、非常に重要な物や貴重な物を安全地帯へ移動させる判断を行うことができる。そうすることで、それらが損傷したり、敵に手に渡ったりしないようにする。これは疎開要請である。店舗や機器や車両や船舶などに適用されることがある。

戦時体制への移行

スウェーデンの統治方法は憲法に規定されている。それらは平時と戦時の両方に適用される。それらに反して形成された政府は違憲である。

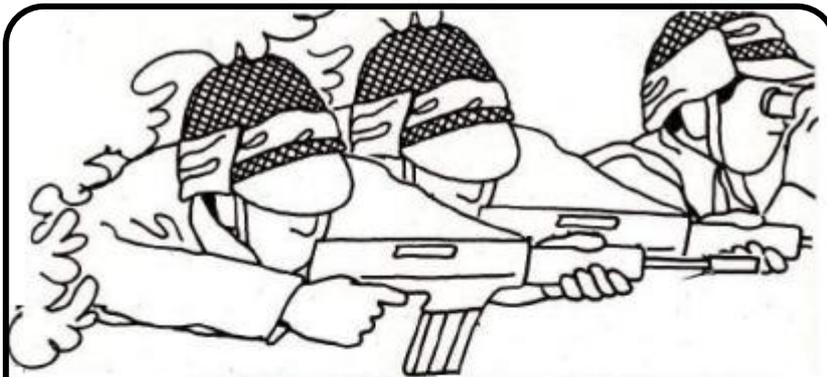
戦時には、議会の機能は、戦時代表団と呼ばれる国会議員の集団によって担われる。誰が戦時代表団員となるかは、平時にも選挙で選ばれる。

戦争が起きたら、国王や閣僚や議会や中央官庁はストックホルムの外のシェルターに移動する場合がある。このための計画がある。

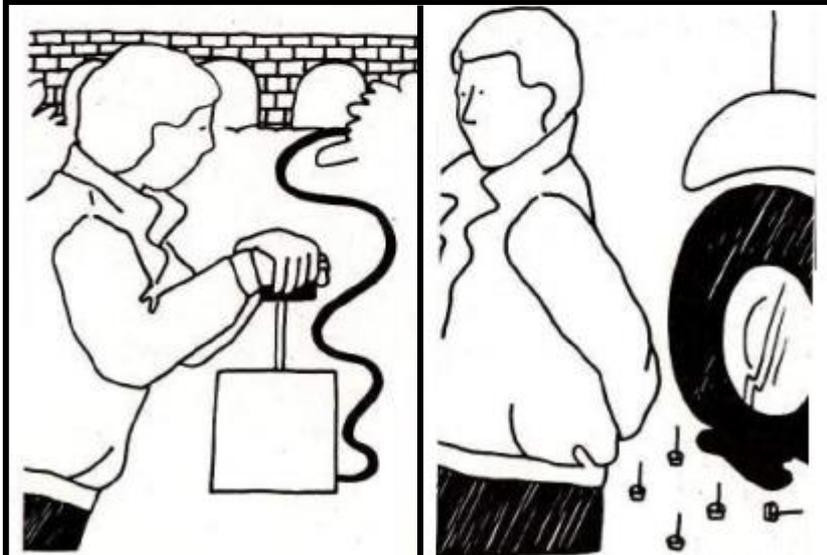
同様に、地方議会やその他の重要機関も安全な場所に移動しなければならない。準備時及び戦時に、それらをどう機能させるかは法律で規定されており、すべては合法的に行われる。

スウェーデン全土が防衛されなければならない。一部たりとも、強く抵抗することなく放棄することはない。しかし、侵略者はスウェーデンの一部を占領するかもしれない。それは、その地域での戦争の終わりを意味しない。抵抗は続く。侵略者たちが安全だと感じることは決してない。我々はスウェーデンが再び解放される日まで戦い続ける。

敵がスウェーデンを占領している限り、抵抗は続く



スウェーデン軍兵士は敵前線で戦う



抵抗活動では破壊工作を行うこともある

武器を使わず、敵を足止めすることも可能である(民間抵抗)

占領地に残ったスウェーデン軍兵士は、ゲリラ戦を戦う。彼らは敵の輸送を攻撃し、負担を与える。

占領地の民間人は抵抗運動を組織できる。武器をとって、地域の解放を助けられる。鉄道やその他の交通機関を妨害し、敵の物資を破壊できる。

それ以外の民間人は民間抵抗、すなわち武器を使わない抵抗を遂行できる。敵への協力を拒み、ストライキをして、敵が必要とするものを隠匿し、問題を多く起こして、敵の手を煩わせる。

何をしてもいいか、何をしてもいけないか、規則がある。戦時国際法について29ページを読むこと。

軍事防衛

政府は国家を指導する。軍事防衛の長は、軍最高司令官である。

彼のもとに、軍司令官がいて、その管轄であるスウェーデンのあらゆる部分の防衛を指揮する。

軍事防衛は85万人を招集(動員)できる。うち11万人は志願兵である。

戦争が急に始まって、動員が間に合わない場合、任務にある兵士たちで敵に対応する。その間に、残りが動員される。動員は家庭防護協会によって防護される。

民間防衛

民間防衛は、管理と調整、供給（食料や電力など）、レスキューと住民防護、心理防衛、その他、社会が機能するようにすることを担う。我々の一般社会すべてが、戦時に機能するように適応する必要がある。

政府のもとで、民間防衛は、民間防衛分野の長である民間防衛長官が管掌する。これは軍事防衛と同様の規模である。地方議会と地方自治体は、地方の民間防衛を管掌する。

電力や医療やその他の分野を平時に管掌する規制当局が、戦時も管掌する。

戦時には、食料や石油や商品を他国から調達できなくなる。我が国の企業の一部は、供給について特に重要である。これらの企業はK(危機重要)企業と呼ばれる。これらの企業は戦時にどう行動するか計画を立てなければならない。

農業は消費エネルギーを削減しなければならない。ある種の商品は備蓄があり、ある程度の時間は対処できる。

地方自治体は、戦時においても緊急対応（消防と救急）を担う。その任にある30万人とボランティアたちが、生命の防護と救命（レスキュー隊員・職場防護・家庭防護）を行う。

心理防衛は、ラジオとテレビの放送と新聞の発行が続けられるように手段を講じる。



民間防衛＋軍事防衛＝トータルディフェンス

戦争法

戦争法がある。戦時国際法とも呼ばれる、これらの法規に、多くの国は同意している。スウェーデンは国際法の重要な条約に調印している。

その他のものの中でも、民間標的(民間人や学校や病院)を攻撃してはならない。しかし、軍事目標への攻撃が付近にいる民間人に被害を与える可能性がある。したがって、戦闘時に多くの民間人に被害を与える場合、戦争法は、軍事目標への攻撃を禁じている。

不必要に大規模な被害を与えたり、不必要に苦痛を与えたり、長期間にわたり自然に被害を与えるような、兵器の使用や戦闘方法は禁じられている。

さらに非人道的扱いから人々を保護する規定がある。

- 民間人を人道的に扱わなければならない
- 人種や皮膚の色や宗教や性別や家族や財産により差別待遇をしてはならない

以下は禁じられている:

- 民間人に対する暴力をふるう
- 尊厳を傷つけ、辱める
- 法的手続きなしに懲罰する

戦時国際法のその他の重要事項:

- 民間人を軍事目標の防衛に使ってはならない
- 民間人を単独あるいは連帯責任で懲罰したり、何かをしなかったことについて単独あるいは連帯責任で懲罰してはならない
- 略奪は禁止(シェルターや無人になった住宅や店舗からのものを盗んではならない)
- 占領地域の住民は、自らが望んだ場合を除き、他国へ移動させられない
- 侵略国の民間人を占領地域に移動させてはならない
- 占領者は占領地域の施設等を破壊してはならない

戦時国際法で特に保護される人々:

- 他者を助ける人々(聖職者や医療関係者や消防救急対応者)
- 病気の患者や負傷者や障害者
- 老人や女性(特に母親)と子供

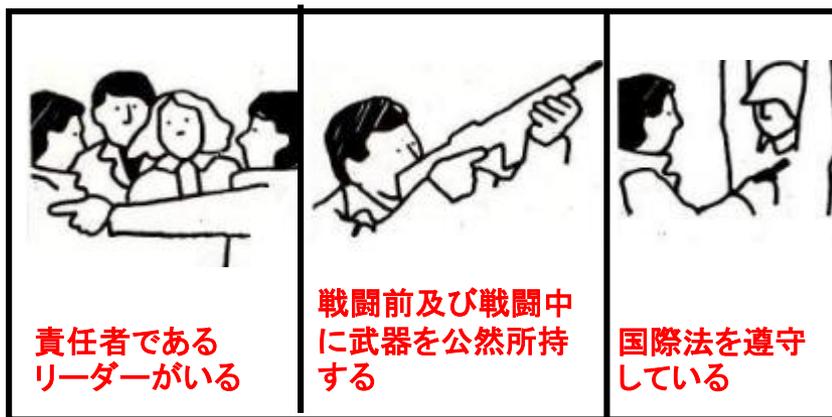
抵抗活動

抵抗活動に参加する場合、活動の参加者が以下であると、国際法(戦争法)で保護される。

- リーダー(責任者)がいる
- 攻撃前及び攻撃中に、武器を公然所持する
- 国際法を遵守している

これらの規定を遵守していれば、侵略者の捕虜となっても、軍服を着た兵士とまったく同様に、戦闘員として遇される資格がある。

抵抗活動の参加者は以下を遵守すれば、保護を受ける



占領

武器を持たない抵抗など、民間人による抵抗活動についての特別な規定はない。暴力や生命に危害を加える行為をしてはならない。

戦争法は、侵略者が民間人を軍のための労働させることを禁じている。スウェーデンのトータルディフェンス及びスウェーデンの抵抗活動について話してはならない。話した場合、戦後に処罰される場合がある。スウェーデン当局及び国民に不利益になることをしてはならない。

占領地域では、侵略者は独自の政府を設置できる。しかし、それは占領地域が侵略者のものになったことを意味しない。一時的に統治権を保有しているに過ぎない。その地域は、スウェーデンの領土である、

その地域に対して、スウェーデンの法律は効力を持っている。国際法は、侵略者が占領地域の統治体制を保護し、自分自身を防護しなければならないことを定めている。しかし、侵略者は占領地域の住民が食料供給と保護を受けられるようにしなければならない。

他の地域に住む人々やスウェーデン当局との連絡を続けること。侵略者の助けになるのでない限り、これまで通り労働すること。スウェーデン当局の決定に従うこと。ただし、占領地域には侵略者に協力する人々がいるかもしれない。注意すること。

敵は我々を欺こうとする

戦争では敵は兵器だけを我々に向けるわけではない。敵は我々を欺こうとする。ビラやラジオで我々を降伏に誘う。敵は我々を不安と困惑に陥れる。

スウェーデンのラジオやテレビは迅速かつ真実の報道を行う。それにより我々は敵のプロパガンダを批判できる。

- いつも読んでいる信頼できる新聞や雑誌を読む。
- スウェーデンの新聞の偽物に注意。
- ビラには間違った情報が書かれている
- いつも聞いている周波数のスウェーデンのラジオを聞くこと。他のスウェーデンの放送局も聞いて確認すること。
- 人々は多くを話すが、誰もが真実を話すわけではない。批判的に聞くこと。聞いたことを誰かに伝えないこと。

平時においても、スパイは我々のトータルディフェンスを調べている。防衛について彼らに話せば、スウェーデンとこの住む人々をひどく損なうことになる。

戦いをやめ、動員をやめるべきだというメッセージを見たら、それは誤りであり、信じてはならない。

- 機密事項や機密と思われることを話さないこと。
- 防衛や発電所や工場などについて外国人に話さないこと。
- スパイと思われる人物や破壊工作をしようとしている人物がいたら、ただちに警察に通報すること。



重要メッセージ

家に入る。ラジオを聴く。窓を閉じる。
警報音7秒＋休止14秒。警報は2分後に終了

7 14 7 14 7 14

緊急警報

戦争の可能性あり。全国民の動員
警報音30秒＋休止15秒。警報は5分後に終了する。

30 15 30

空襲警報

航空機による攻撃。シェルターに急ぐ。
短い警報音が一分間。



警報解除

危険が去った
長い警報音。30～40秒で終わる。

